道化と※［＃濁点付き片仮名ヰ、1-7-83］ナス

ボードレール

富永太郎訳

青空文庫

何といふすばらしい日だ！　広大な公園は、愛神（アムール）の支配の下にある若者のやうに、太陽のぎら〳〵した眼（まなこ）の下に悶絶してゐる。

なべての物にあまねき此の有頂天を示す物音とてはない。河の水さへ眠つたやうである。ここには人の世の祭とは遙かに事かはつた、静寂の大饗宴があるのだ。

不断に増しつゝある光はます〳〵物象を輝かせてゐるやうだ。上気した花は、其の色の勢力を、空の瑠璃色と競はうとする欲望に燃えてゐる。そして熱は、香（かをり）を目に見えるものにして、烟のやうに、かの天体の方へと立ち昇らせてゐる。

とはいへ、私はこの万有の快楽の中に、一つの悲しんでゐる存在のあるのを知つてゐる。

巨大なヰナスの足許に、王達が「悔恨」や「倦怠」に悩まされるとき、彼等を笑はせるのを務めとする、かの人工の馬鹿、故意の道化の一人が、けば〳〵しい馬鹿げた衣（ころも）を身に纏（まと）ひ、鈴附きの角（つの）形帽子を戴いて、台石のもとにうづくまり、涙に満ちた眼（まなこ）で永遠の女神を見上げてゐる。

かくて、彼の眼は云ふ――「私は愛と友情とを奪はれた、人間の中で一ばん下等な、一ばん孤独なものでございます。この点では、私は動物の中の最も不完全なものにも劣つて居ります。それでも――私でもやはり永遠の美を味はつたり、感じたりするやうに造られて居るのです。あゝ、女神（かみ）さま！　私の悲しみと熱狂とを憐んで下さいまし。」

しかし仮借することを知らぬヰナスは、その大理石の眼で、私にはどことも知れぬ遠い方（かた）を眺めてゐる。

青空文庫情報

底本：「富永太郎詩集」現代詩文庫、思潮社
　1975（昭和50）年7月10日初版第1刷
　1984（昭和59）年10月1日第6刷
底本の親本：「定本富永太郎詩集」中央公論社
　1971（昭和46）年1月
入力：村松洋一
校正：岩澤秀紀
2013年1月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

道化と※［＃濁点付き片仮名ヰ、1-7-83］ナス

ボードレール

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　富永太郎訳
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/